授業科目 地域・在宅看護方法論Ⅰ	担当講師名	単位数 1	時間数 15	履修年次・前 / 後 1年次/後期
講義のねらい	1 地域包括ケアシステムと地域福祉活動の実際を理解する。 2 コミュニティアセスメントとコミュニティ支援の実際を理解する。 3 保健行動理論を理解し地域看護対象者への活用方法を理解する。 4 地域看護活動における対人支援活動の実際を理解する。			
授業形態	講義・演習			担当及び時間
講義内容	1 保健行動理論と健康行動を生み出す力 1)行動をとりまく要因と保健行動 2)健康教育の基盤となる理論 3)保健行動理論と保健行動モデル 4)セルフケア不足理論 5)ヘルスリテラシーと自己効力感 6)コミュニティエンパワメント・コミュニティアズパートナーモデル プリシードプロシードモデル 2 鹿屋市の概要 1)鹿屋市健康づくり計画の理解 2)鹿屋市地域包括支援センターの理解 3)鹿屋市社会福祉協議会の理解 3 対人支援の基本と対人支援技術の実際 1)健康相談の実際 2)健康診査の実際 3)家庭訪問の実際 4)健康教育(個別指導と集団指導)			8 2 2 3
教科書	地域・在宅看護論の基盤(1) (医学書院) 地域・在宅看護論の実践(2) (医学書院)			
参考文献	1 基礎からわかる地域・在宅看護論(明林社) 2 地域療養を支えるケア(1)(メディカ出版) 3 必要に応じて資料を配付する			
評価方法	終講試験 1 50 点、2・3 50 点 合計 100 点			
備考欄	教員とのコンタクトは授業終了後又は終講時に案内する			